



金座—小判のふるさと

1999年6月18日(日)～8月31日(金)



[「これまで開催した企画展・テーマ展」目次へ戻る](#)

- [ごあいさつ](#)
- [図録](#)
- [展示品のご紹介](#)
- [関係論文](#)
- [ポスター\(拡大\)](#)

ごあいさつ

江戸時代、現在の日本銀行本店の所在地(中央区日本橋本石町)には「金座(きんざ)」がありました。金座は、小判など江戸期の高額貨幣である金貨の鑄造に携わっていたほか、通貨の発行という、現在の中央銀行が果たしているのと同様の重要な役割を担っていました。貨幣博物館では、こうした金座と日本銀行の共通点に着目し、企画展「金座—小判のふるさと」を開催することと致しました。今回の企画展では、当館が所有する江戸時代のさまざまな金貨をはじめ、金貨の鑄造を場面ごとに表わした絵巻、金座の敷地の見取図である絵図、金座で実際に用いられた道具類、金座に関する古文書などを展示してあります。また、江戸時代にしばしば実施された貨幣の改鑄(金貨の大きさや金含有量などを変更すること)につきましても、時代を追って解説を行っています。これら金座に関する歴史的な資料や解説を通じて、江戸時代の経済や人々の生活を思い描いていただければ幸いです。企画展の開催にあたりまして、関係機関ならびに関係各位から、貴重な資料の出品や写真の提供をしていただくなど、格別のご高配を賜りました。この場をお借りして、心からお礼を申し上げます。

日本銀行金融研究所貨幣博物館

展示品のご紹介

A. 金座とは

金座とは、江戸時代に金貨(大判を除く)の鑄造ならびに発行を幕府から請け負った機関です。足利家の御用彫金師であった後藤家の流れをくむ橋本庄三郎(のちの後藤庄三郎光次)が、徳川家康によって江戸に招かれ、ここで金貨の製造を統括したことに端を発しています。

金座は、「座」という言葉からも窺えるように町人の集団ではありましたが、金貨の鑄造・発行のみならず、鉱山で採掘した金や古い金貨の鑑定、金の精錬、金貨の補修など、江戸幕府の金貨に関わるほとんどの事項を所管しており、時には貨幣の品位や発行数量などを変更する「改鑄」に際して幕府に対して意見を述べるなど、大きな影響力を持っていました。

番号	展示品の名称	年代	点数
A-1	日本橋区史	昭和12(1937)年	1
A-2	金局秘記	文政8(1825)年以降	1
A-3	嘉永年度江戸明細図	嘉永3(1850)年	1
A-4	江戸金座絵図	天保年間(1830-1844)	1
A-5	佐渡金座絵図	江戸時代	1
A-6	京都金座絵図	江戸時代	1
A-7	佐字小判	正徳4(1714)年以降	1
A-8	佐字極印	江戸時代	1
A-9	鑑札	天保4(1833)年	1
A-10	御用札	江戸時代	1

[TO TOP](#)

B. 金座の人々

金座は、御金改役を長として、金に関する一切の事項をつかさどる後藤役所、地金を製造する金座人役所、地金から貨幣を鑄造する吹所からなっていました。御金改役は光次を初代とする後藤庄三郎家の世襲でした。

番号	展示品の名称	年代	点数
B-1	金座人出勤並転役年月調書	元治元(1864)年	1
B-2	凡御益積	江戸時代末期	1

[TO TOP](#)

C. 金座以外の貨幣鑄造所

江戸時代には、金貨、銀貨、銭貨の3種類の鑄造貨幣が使用され、それぞれ金座、銀座、銭座といった別々の場所で鑄造されていました。

番号	展示品の名称	年代	点数
C-1	享保大判	享保10(1725)年	1
C-2	寛永通宝一文銭	寛永3(1626)年	2
C-3	元禄丁銀	元禄8(1695)年	1
C-4	元禄豆板銀	元禄8(1695)年	2

[TO TOP](#)

D. 金座の様子が描かれた絵巻

金座絵巻には、金座で働く人々の様子が作業ごとに描かれています。佐渡の絵巻については佐渡金山における金鉱石採掘の場面も描かれています。

番号	展示品の名称	年代	点数
D-1	佐渡国金山の図	文政年間頃	2
D-2	金座絵巻	文政年間頃	1
D-3	佐渡金座に関する絵巻	文政年間頃	3
D-4	佐渡金山の金鉱石	—	3
D-5	竹流し台 (復元)	—	1
D-6	棹金 (復元)	—	2
D-7	延金 (復元)	—	1
D-8	切金 (復元)	—	6
D-9	槌目をつける前の小判	—	1
D-10	槌目をつける作業途中の小判	—	1
D-11	色揚げに用いる薬品類	—	3
D-12	色揚げ前の小判 (復元)	—	1
D-13	色揚げ後の小判 (復元)	—	1
D-14	元禄小判	元禄8(1695)年	1
D-15	金座の百両包紙	江戸時代	1
D-16	金融研究	—	2

E. 江戸時代の金貨

小判と一分金とは常に同時に発行され、重量も含有金量も4：1に造られています。通常この両者を併せて、最初に発行されたときの元号を冠して「慶長金」、「元禄金」などと呼ばれています。

番号	展示品の名称	年代	点数
E-1	慶長小判	慶長6(1601)年	2
E-2	元禄小判	元禄8(1695)年	2
E-3	宝永小判	宝永8(1695)年	2
E-4	正徳小判	正徳4(1714)年	2
E-5	享保小判	正徳5(1715)年	2
E-6	元文小判	元文元(1736)年	2
E-7	文政小判	文政2(1819)年	2
E-8	天保小判	天保8(1837)年	2
E-9	安政小判	安政6(1859)年	2
E-10	万延小判	万延元(1860)年	2
E-11	慶長一分金	慶長6(1601)年	2
E-12	元禄一分金	元禄8(1695)年	2
E-13	宝永一分金	宝永8(1695)年	2
E-14	正徳一分金	正徳4(1714)年	2
E-15	享保一分金	正徳5(1715)年	2
E-16	元文一分金	元文元(1736)年	2
E-17	文政一分金	文政2(1819)年	2
E-18	天保一分金	天保8(1837)年	2
E-19	安政一分金	安政6(1859)年	2
E-20	万延一分金	万延元(1860)年	2
E-21	天保五両判	天保8(1837)年	2
E-22	文政真文二分金	文政元(1818)年	2
E-23	文政草文二分金	文政11(1828)年	2
E-24	安政二分金	安政3(1856)年	2
E-25	万延二分金	万延元(1860)年	2
E-26	元禄二朱金	元禄10(1697)年	2
E-27	天保二朱金	天保3(1832)年	2
E-28	万延二朱金	万延元(1860)年	2
E-29	文政一朱金	文政7(1824)年	2

F. 小判の誕生

砂金のまま使われていた金が、金板のかたちで取り引きされるようになり、次第に小判のかたちをとるようになりました。

番号	展示品の名称	年代	点数
F-1	ひるも金	室町時代後期	3
F-2	ゆずり葉金	室町時代後期	1

F-3	天正大判	安土桃山時代	1
F-4	武蔵墨書小判	16世紀末期	1
F-5	駿河墨書小判	16世紀末期	1
F-6	慶長小判	慶長6(1601)年	1



[TO TOP](#)

G. 忠臣蔵ばかりが元禄じゃない(元禄・宝永の改鑄)

改鑄とは、江戸幕府が財政の補填や、物価ならびに景気の調節などを目的に、大きさや金含有量を変更したあらたな金貨を発行することをいいます。GからJでは、江戸時代の改鑄について時代を追って詳しく説明しています。時代が下るにつれて、金貨は小形になり、品位は低下していきました。

番号	展示品の名称	年代	点数
G-1	元禄小判	元禄8(1695)年	2
G-2	元禄一分金	元禄8(1695)年	2
G-3	慶長小判	慶長6(1601)年	1
G-4	元禄小判	元禄8(1695)年	1
G-5	元禄豆板銀	元禄8(1695)年	1
G-6	元禄小判	元禄8(1695)年	3
G-7	宝永小判	宝永8(1695)年	2
G-8	宝永一分金	宝永8(1695)年	2
G-9	元禄小判	元禄8(1695)年	1
G-10	宝永小判	宝永8(1695)年	1
G-11	宝永豆板銀	宝永3(1706)年	1
G-12	慶長小判	慶長6(1601)年	1
G-13	宝永小判	宝永8(1695)年	1
G-14	宝永豆板銀	宝永3(1706)年	4



[TO TOP](#)

H. 昔の品位で出しました (正徳・享保の改鑄)

番号	展示品の名称	年代	点数
H-1	新古金銀割合之次第	正徳(1711-1716)年間	1
H-2	宝永小判	宝永8(1695)年	2
H-3	享保小判	正徳5(1715)年	1
H-4	享保豆板銀	正徳4(1714)年	1
H-5	元禄小判	元禄8(1695)年	2
H-6	享保小判	正徳5(1715)年	1
H-7	享保豆板銀	正徳4(1714)年	1
H-8	慶長小判	慶長6(1601)年	1
H-9	享保小判	正徳5(1715)年	1
H-10	正徳小判	正徳4(1714)年	1
H-11	享保小判	正徳5(1715)年	1
H-12	享保佐字小判	正徳5(1715)年	2
H-13	享保佐字一分金	正徳5(1715)年	2



[TO TOP](#)

I. お上の喜ぶ大吉小判（元文・文政の改鋳）

番号	展示品の名称	年代	点数
I-1	元文小判	元文元(1736)年	1
I-2	文政小判	文政2(1819)年	1
I-3	享保小判	正徳5(1715)年	2
I-4	元文小判	元文元(1736)年	3
I-5	元文一分金	元文元(1736)年	1
I-6	元文小判（献上小判）	元文元(1736)年	2
I-7	元文小判	元文元(1736)年	2
I-8	元文小判（偶然大吉）	元文元(1736)年	1
I-9	元文小判	元文元(1736)年	1
I-10	文政小判	文政2(1819)年	1



[TO TOP](#)

J. やせても枯れても小判は小判（天保・安政・万延の改鋳）

番号	展示品の名称	年代	点数
J-1	天保五両判	天保8(1837)年	1
J-2	文政小判	文政2(1819)年	1
J-3	天保小判	天保8(1837)年	1
J-4	天保小判	天保8(1837)年	1
J-5	天保一分銀	天保8(1837)年	4
J-6	メキシコ銀	1854年	1
J-7	天保小判	天保8(1837)年	1
J-8	安政小判	安政6(1859)年	1
J-9	安政一分金	安政6(1859)年	1
J-10	天保小判	天保8(1837)年	1
J-11	万延小判	万延元(1860)年	3
J-12	万延一分金	万延元(1860)年	1
J-13	万延二朱金	万延元(1860)年	1
J-14	安政小判	安政6(1859)年	1
J-15	万延小判	万延元(1860)年	2
J-16	万延一分金	万延元(1860)年	2
J-17	万延二朱金	万延元(1860)年	1
J-18	嘉永一朱銀	嘉永6(1853)年	1



[TO TOP](#)

K. 金座はこんなものも造った

金座は貨幣以外に、試鋳貨や記念貨なども造りました。

番号	展示品の名称	年代	点数
----	--------	----	----

K-1	金銀図録	文化7(1810)年	2
K-2	八両判	江戸時代初期	1
K-3	金座試鑄貨	天保年間以降	38
K-4	永楽通宝沢瀉紋銀錢	江戸時代後期	1



L. 小判1枚の値打ち

小判1枚の値打ちは、経済の仕組みや生活が江戸時代と現在とでは大きく異なるため、的確なことはいえませんが、歴史的な史料から小判1枚でどれくらいの量の財やサービスを買うことができたかはわかります。

番号	展示品の名称	年代	点数
L-1	慶長小判	慶長6(1601)年	1
L-2	元禄小判	元禄8(1695)年	1
L-3	元文小判	元文元(1736)年	1
L-4	天保小判	天保8(1837)年	1
L-5	御免御富御仕法	江戸時代	1
L-6	三縁山富札	江戸時代	1

